

酒井美恵子 先生

(さかい・みえこ)

国立音楽大学音楽学部器楽学科ピアノ専攻卒業。東京都の公立中学校教諭及び指導主事を経て2005年度より国立音楽大学にて教職科目を担当。著作等として「おすすめ資料」欄に掲載の書籍や映像などがある。教員養成及びねらいの明確な楽しい授業を現場の先生方と一緒に具体的に考えていくことを大切にしている。



音楽との出会い

—— まず、先生のお子様の頃のお話から伺えればと思います。

酒井 武蔵野市に住んでいたことが、音楽に進む1番大きな要因だと思います。2棟で60世帯ぐらいの国鉄アパートに住んでいましたが、そこに国立音大卒のピアノの先生が来てお稽古をしていました。5歳上の姉や近所の小中学生が習っていて、私の家も会場でしたから、小さい時からピアノを聴いて育ちました。私自身も小学校から習い始めました。

武蔵野市で通った小学校では、中学年以上は音楽専科の素晴らしい先生が、最新の音楽の授業をしてくださったり、ソプラノの中村邦子先生をお招きして生の演奏を聴いたりもしました。

また、市には市民に良い音楽を安価に提供する事業があって、安川加寿子先生のピアノやヨセフ・モルナル先生のハープの生演奏を聴いた覚えがあります。

—— 中学時代はいかがでしたか？

酒井 市立の中学校に進学しましたが、「音楽センター」という市の吹奏楽の取り組みがありました。月に1～2回、水曜日に個人レッスン、土曜日に合奏がありました。私はフルートでしたが、国立音大の学生さんに個人レッスンを受けた記憶があります。合奏指導の先生が市民オケを立ち上げたような先生で、音楽センターに出会ったのも良かったと思います。そういう小・中の先生との出会いで音楽を志しましたので、武蔵野市というのがキーワードだと思います。

—— 高校、大学の頃はいかがでしたか？

酒井 中学生になり本格的にピアノやソルフェージュを始めて本学の附属に入りました。高校時代、一生懸命頑張って3年生の時、定期演奏会と卒業演奏会に出演しましたが、満足のいく演奏ではなかったと思います。ソロよりも伴奏が好きでした。大学時代は歌、バイオリン、オーボエ、フルート、ホルンなどの伴奏に熱中していました。一緒に合わせて音楽を作っていくのがすごく楽しかったです。伴奏を仕事にしたい気持ちもありましたが、教えることも好きでしたから公立中学校の音楽科教員になり、3校教えました。

音楽科の教員から指導主事へ

—— それぞれの学校での思い出をお聞かせいただけますか？

酒井 最初の学校では、あまり勉強に前向きではない子たちが、冬の合唱コンクールでオフコースの《さよなら》を歌いたいと言ってきました。ポップスの合唱は難しいのですが、意欲があってクラスみんなもやりたいということで、担任の先生と相談して混声3部に編曲して歌いました。後の感想文に「歌えてよかった。歌いながら体育館の窓の外を見たら雪が舞っていて歌詞と重なった。一生忘れないだろう」と書いてくれて、今でも覚えています。

2校目は教育委員会の指導室訪問がありました。事前に出した授業プランを指導主事さんが子細に見てプリントを作り、その中に自分の授業も取り上げられていて「これはこういう価値がある。こういう教育に繋がる良い取り組みだ」と説明されました。自分のやっていることが何に繋がるかが分かって嬉しく、指導主事になりたいと思いました。そのためには研究歴が必要なので、東京都の教育研究員という制度で1年間、他の区市町村の先生とグループ研究をしました。研究することは授業の質が上がると思いました。

3校目では、コンピュータを使った音楽の授業を研究しました。そして「東京の教育21」で1年間の研究をしたり、筑波の宿泊を伴う教員研修に行かせていただいたりしました。

—— その後はどうなさいましたか？

酒井 指導主事を5年間しました。指導主事は、学習指導要領に基づいて学校が適正に教育課程を編成して実施していくことを指導・助言する仕事です。幼稚園の保育、小・中学校、特別支援学級の授業をととてもたくさん拝見し、その良さや課題を瞬時にとらえて言語化することを繰り返しましたので、記録の取り方や、指導・助言の仕方が伸びたと思います。それは今、学生の模擬授業を助言する時にも、呼んでいただいた各学校の授業研究の助言や合唱コンクールの講評にも役立っている財産です。

専門家のアイデアを子どもたちへ繋ぐ

—— 研究者になられて共著やDVDなどの出版物を制作なさっておいでですね。

酒井 共著やDVDは子どもの笑顔に繋がるための授業プラン、現場の先生方の悩みに答える解説書、教員になりたい人のためのガイドブックの3種類に分かれます。

授業プランに関しては2010年出版の『中学音楽が魅力的に変わる！授業プランの新モデル24』が最初で、骨格を作ったり、アイデアを出したりして類書がないものが出来ました。かなり重版したので、企画書を出せるようになりました。

そこで、小学校低学年にはリトミックをと考え、井上恵理先生と一緒に『動いてノッて子どもも熱中！リトミックでつくる楽しい音楽授業』を出し、学校現場の先生からすごく喜ばれました。

実は、この本の最終的な仕上げを研究室でしている時に東日本大震災が起きました。

—— どうなりましたか？

酒井 震災発生の翌日から研究室で、ラジオをかけながら仕事をしていると、暗いニュースに混じって、アンパンマンマーチが流れたのです。それを聴いたら子どもたちがパツと明るくなったというのです。音楽を含む芸術が、人が生きるのに大切だと思いました。震災の後に自分に何ができるかと考えたら、子どもたちが楽しいと思う音楽の授業を提供することだと考えました。国立音大には、素晴らしい先生方がたくさんいらっしゃいますから、専門の先生からいっぱいアイデアをいただき、それを学校に繋ぐ役をしたいと思って2011年に一気に企画をして頑張りました。2011年以降、本が続いて出ているのは、そういう原動力があつてのことです。

ただ、頑張りが過ぎて、大震災が起きた3月11日から7月まで土日も休まずに仕事をした結果、片方の耳が「低音障害型感音難聴」になりました。回復しましたが気持ちだけあってもダメだと思って、上手に休みながら仕事をするようになりました。

—— お休みはどう過ごされるのですか？

酒井 家では猫と一緒にダラダラと。でも「このようにしたら先生たちは取り組みやすいかな」とか「子どもの笑顔はここで出たろうな」とか「こういう教材があれば授業がやりやすいだろうな」というようなことを考えています。パソコンを使うのは5時間までと決めて研究室でしかやらないので、形にするのは研究室です。

—— 2012年以降に刊行された、授業プランの図書を教えてください。

酒井 今村央子先生と一緒に、小学校低学年から中3まで、楽しく音楽を作りましょうというテーマで『楽しくつくるアイデア満載！「音楽づくり」成功の授業プラン』と『表現力アップの仕掛けが満載！「創作」成功の授業プラン』を2012年に出版しました。これもとてもうまくいきました。

横井雅子先生と作った『プロの演奏でつくる！「日本・アジアの伝統音楽」授業プラン』は2014年刊行で、そのまま使えと、先生たちからとても好評です。前半部分は横井先生がすごく分かりやすい解

説を書いてくださって、後半はこんな授業の流れでこのプリントを使うと映像と一致して取り組みやすいですよという流れになっています。

『「茶色の小びん」「南京豆売り」ノリノリ体験教室』も同じ年の刊行です。初め中学校用と想定していましたが、栗山和樹先生がむしろ小学校段階で偶数拍を強く感じるような体験をさせたいとおっしゃって、ジャズの先生方の協力を得て素敵な映像ができました。プロのカラオケで児童がセッションできるようになる映像です。また、塩谷哲先生がナビゲーターを担当されて偶数拍を強く感じるためのステップを教えてください、カルロス先生がラテンダンスを教えてくださいたりしています。

授業プラン以外の共著

—— 学校の先生方用の本などもありますね。

酒井 阪井恵先生と作った『導入・スキマ時間に楽しく学べる！小学校音楽「魔法の5分間」アクティビティ』は重版8回目です。授業の隙間時間に何かやっていないかと、全国に出した1000通の往復はがきから返信のあった約300を分析し、いっぱい良いことがあるから、みんなに伝えようという意図で作りました。

もうひとつは『音楽授業でアクティブ・ラーニング！子ども熱中の鑑賞タイム』です。「アクティブ・ラーニング」をクローズアップしていたので、そのことを受けて、これも阪井先生と一緒に出しました。面白いものができたと思います。

—— 漫画が入っているものもありますね。

酒井 『4コマ漫画で楽々ナットク 中学校評価丸わかりガイド』と『4コマ漫画で楽々ナットク 中学生徒指導丸わかりガイド』ですね。それぞれ中学校の先生たちやこれから教員になりたいという人たちが、短い時間で理解できるようにということで漫画を取り入れました。そこでクエスチョンを作って、専門の先生に答えてもらうスタイルです。

『めざせ！ 中学校・高校教員 教員採用試験突破ガイド』にも漫画を入れました。これは、これから教員になりたいという人たちが対象です。

—— 多くの先生方とコラボレーションなさったご感想は？

酒井 皆さん、アーティストと研究者なので、「子どもたちにこういうことを伝えたい」と言うと、次から次へアイデアが出てきて、私の役割は例えば126ページに収めるとか、現場の先生たちが使いやすいように取舍選択をしつつ作っていくことです。あたかもソリストと伴奏者みたいな、そんな感じがしました。

—— 特別な反応はありましたか？

酒井 東京都以外の教員研修会に呼んでいただいたり、他県の先生が直接訪ねていらして一緒に勉強したり、面識のない先生から「学習指導要領の改訂にあたり、多忙な小学校の先生に分かりやすく、より良い実践の方向性を示唆する本を作るので、音楽科のページを」と執筆依頼されたりしました。とても嬉しかったですね。

くにおんの教員養成

酒井 教員になる学生や卒業生がとても多いですが、教員養成を組織で行なって、それがうまく回っています。また全学生の6割ぐらいが教職課程を履修し、それぞれ専門となる音楽を極めようと頑張っている、その底力があるからこそ受かるのだと思います。学生の人柄がすごく良いので、この人たちを子どもの前に送り出すことが社会貢献になると私は思っています。音楽の力が伸びているのはカリキュラムの良さもありますね。基礎課程を1、2年でできっちりと学んで、同時に専門をしっかり学ぶという、そこがきちんとあるから教員として良い人たちになっていくのだと思います。

——先生の授業はどのような内容なのですか。

酒井 教職科目で言いますと、2年生、3年生の音楽科教育法を持っています。あとは4年生の教職実践演習というまとめのものです。

2年生のクラスでは、前期にまず考えることをやってもらいます。授業には今日のねらいがあって、自分の目の前の子どもたちを見て、あるクラスではこの方法で、他のクラスでは別な言い回しで、ねらいに向かって工夫をしていく即興的な部分もあります。だから、いろんなことを考えることが大事だと思います。グループで、学習指導案の略案をまず作り、もっと詳細なものを少しずつ作るように「今日は題材名を作れるように」とか「終わりのほうには、適切な目標の作成ができるように」という具合に育てていきます。

後期には、前期で学んだことを生かして学習指導案を作り、模擬授業を行います。模擬授業は30分ぐらいグループで行って「こんなところが良かった」とか「ここはこういう方法にするともっと分かりやすいですね」などと具体的な指導・助言を繰り返していきます。大体30～40人の学習集団なので、学生は自分が作るだけでなく、ほかの6～7の模擬授業を見て、それに対して自分だったらどうしようと考えますので財産が溜まっていくと思います。

また、今も実際の現場の教員の授業を、年間10回ぐらい拝見しているので、現場の先生ではこういう方法もあるよという紹介の仕方ができます。これは続けていきたいと思っています。

仲間づくりの重要性

——教員になりたい学生さんへ助言がありましたら。

酒井 教員になりたいとか採用試験を受けたいと思っている人は、一緒に頑張る仲間づくりをお勧めします。仲間がいると、合格しやすい感じがします。すごくたくさん受かった年には、いくつかのグループがそれぞれ切磋琢磨して、グループごといろんな先生のところに「面談してください」「集団討論の練習をお願いします」「論文を書いたから見てください」と来ていました。

また、同世代が東京都だけではなく、全国あちこちで教員をやっているのもまた価値があることです。私たちも意図的に去年受かった人と繋ぐようにしています。1次だけでも受かった人がいると、「今年受ける後輩がいるから助言してあげて」といって繋がります。そうすると仲間ができて一緒に頑張れるようです。



——こんなに教職に強い国立になったのには何か理由があるのですか？

酒井 2007年度に1人、学校教育コース2期生の学生が3年の夏休みに採用試験の勉強をすごく頑張ったんです。

その人に火がついたきっかけはこうでした。2004年に大学が新カリキュラムになり、1期生が3年生になった時にコースが始まりました。学校教育コースの学生から「学校教育コースは、良い先生になる勉強はあるけど、試験に受かるための勉強はなく、残念だ」と言われました。そこでその翌年3年生以上対象の「学校教育専門演習ABC」を作りました。Aは実技対策で弾き歌いや伴奏付けなどに、Bは楽典の復習から音楽史、作・編曲など諸々全部入ったものに取り組み授業で、Cは「日本の音楽と世界の音楽」に特化して深めていくという内容です。そして全国の過去問なども勉強し、音大で習ったことのない問題がたくさん出題されていると分かって、それをきっかけに1人の学生が頑張り、周りも呼応して頑張ったのです。その学生のいた年は学部生だけで20名以上合格しました。

——学生さんたちへメッセージを。

酒井 経験したことは何でも教員として役に立つので、大学時代にいろんなことを学んで、いろんな人と関わって、個性を磨いてほしいです。そして学生時代に、学習ボランティアや部活のコーチなど子どもに接する体験をすることは採用試験にも教員に採用されてからも役立つ経験だと思います。

——今後についてひとことお願いします。

酒井 今回こうした機会をいただき幼少期を思い出して、自分は偶然ピアノに出会って音楽に進んだと思っていましたが、結局、小学校の先生や中学校の音楽センターの先生たちが、子どもに良い音楽に出会わせたいという思いを持っていて、自分も周りの人たちも音楽が好きになったりその道に進んだりしたのだと感じました。だから私も、音楽の授業を通して子どもに笑顔をとという思いを持ち続けて、引き続き頑張ろうと改めて思いました。

——ありがとうございました。(了)



❄️❄️ 酒井先生おすすめの資料 ❄️❄️

図書

『ちいさい言語学者の冒険 子どもに学ぶことばの秘密』

広瀬友紀 岩波科学ライブラリー 2017 ●当館未所蔵 TAC:津田塾大学、武蔵野美術大学所蔵

人が言葉をどのように獲得していくのかに興味をもって読み始めました。小さい子どものエピソードをふんだんに盛り込んであり、楽しく学ぶことができます。小さい頃にご自分が使った面白い言い間違いなどを思い出すかもしれません。

『オノマトペの謎 ピカチュウからモフモフまで』

窪田晴夫編著 岩波科学ライブラリー 2017 ●当館未所蔵 TAC:国際基督教大学所蔵

国立国語研究所が主催したフォーラムにおける発表をもとにした本です。さまざまな研究者がオノマトペについて述べていますが、とりわけ子音そのものがもつイメージの解説が印象に残りました。これを読むと、歌を歌う時の言葉の発音に一層気を付けるようになるかも!?です。

CD

《魔王》 福井敬(テノール) 横山幸雄(ピアノ)

松本隆日本語訳/シューベルト:歌曲集「美しき水車小屋の娘」avex io

請求記号●XD54289[ほか]

松本隆プロデュースのCD「美しき水車小屋の娘」に入っています。《魔王》は昭和30年代から現在まで中学校1年生の音楽の教科書に掲載され続けている作品です。日本中の中学生にこの素晴らしい演奏を聴いてほしいと思っています。



酒井先生著作集

国立音楽大学の素晴らしい先生方と共に作った書籍や映像です。

「教育実習の授業のヒントが欲しい」「学校の先生になりたい」という学生の皆さんにおすすめです。

酒井先生より
ひとこと!

<小学校音楽>

＊『動いてノッて子どもも熱中!リトミックでつくる楽しい音楽授業』(音楽授業が楽しくなる!小学校学級担任サポートBook;1)井上恵理、酒井美恵子著 明治図書出版 2012
付属資料: DVD-Video 請求記号●シラバス/井上恵理/17:館内閲覧 2F開架[ほか]

＊『「音楽づくり」成功の授業プラン:楽しくつくるアイデア満載!』(音楽授業が楽しくなる!小学校学級担任サポートBook;2)今村央子、酒井美恵子著 明治図書出版 2012
付属資料: DVD-Video 請求記号●シラバス/酒井美恵子/11:館内閲覧 2F開架[ほか]

＊『音楽発表会やリズムダンスを成功させる!「茶色の小びん」「南京豆売り」ノリノリ体験教室』栗山和樹、酒井美恵子制作 2014 請求記号●VE5043

＊『小学校音楽音符&リズムワーク:楽譜がみるみる読める!』(音楽科授業サポートBooks)今村央子、酒井美恵子著 明治図書出版 2015
請求記号●教職(小)/教科研究/IMA 2F開架

<中学校音楽>

＊『「創作」成功の授業プラン:表現力アップの仕掛けが満載!』(学びがグーンと深まる!エキスパート発人気の中学音楽;1)今村央子、酒井美恵子著 明治図書出版 2012
付属資料: DVD-Video 請求記号●シラバス/酒井美恵子/12:館内閲覧 2F開架[ほか]

＊『プロの演奏でつくる!「日本・アジアの伝統音楽」授業プラン』(学びがグーンと深まる!エキスパート発人気の中学音楽;2)横井雅子、酒井美恵子著 明治図書出版 2014
付属資料: DVD-Video 請求記号●シラバス/酒井美恵子/4:館内閲覧 2F開架[ほか]